

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)。

#### 前回からの主要変更点

	前回(平成30年2月)	今回(平成30年5月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかな回復基調</u>	<u>緩やかな回復基調</u>	
個人消費	底堅く推移	持ち直しの動き	

#### 1. 生産及び企業動向

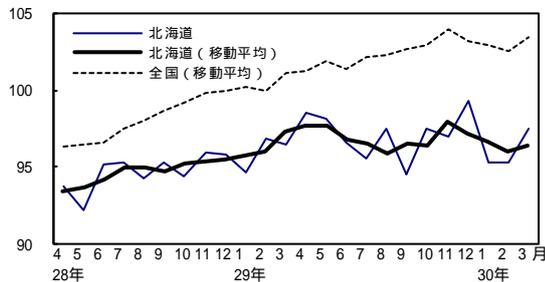
(1) 第一次産業は生乳生産、水産業の水揚量ともに前年を上回っている。

1 - 3月期には、生乳生産は総量では980,288tと前年比2.9%増となり、乳製品向けが増加した。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ等が増加したため、前年比51.9%増となった。

(2) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1 - 3月期には、食料品は、値上げ前の駆け込み需要によりビール等が増加した。パルプ・紙は、生産設備のトラブルにより包装用紙が減少した。電気機械は、無線通信装置、集積回路等が減少した。鉄鋼は、特殊鋼線材、鋼半製品等が増加した。輸送機械は、自動車駆動伝導装置等が減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
食料品	24.2	0.2	1.4	0.7	3.4	0.1
パルプ・紙	11.9	1.5	1.2	0.8	2.2	4.4
電気機械	11.7	9.7	3.3	7.2	1.0	1.2
鉄鋼	7.5	8.4	0.2	5.4	2.7	4.3
輸送機械	7.0	8.4	8.9	22.9	7.4	6.0
鉱工業	100.0	2.2	1.9	4.0	0.0	2.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1 - 3月期、3月は速報値。

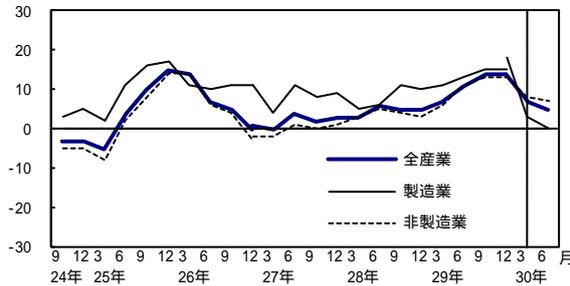
(備考) 1. 22年 = 100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。

2. 全国及び北海道の大線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

(3) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

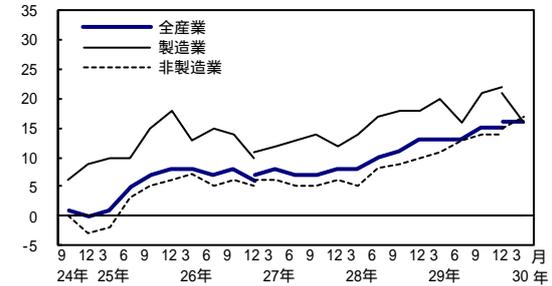
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



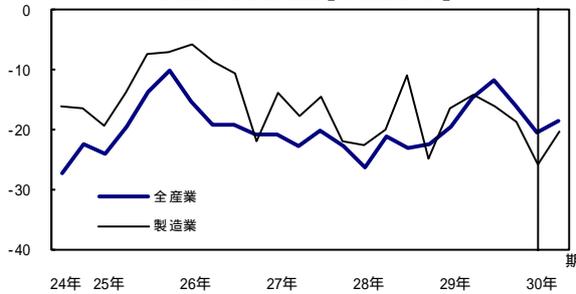
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年6月は予測。26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]

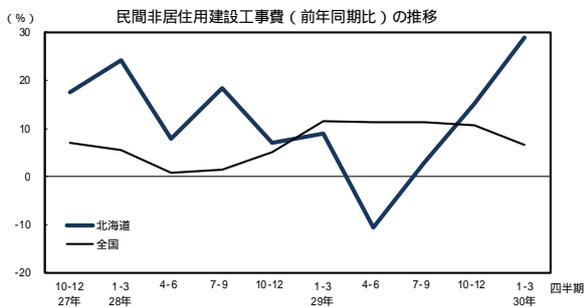


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「原材料価格や人件費の上昇が企業収益を圧迫している。個人消費も原油高を背景としたエネルギー価格の高止まりから力強さを欠いており、公共投資も減少に転じている。一方、堅調な外国人観光客による消費と民間設備投資が景気を押し上げており、道内景気は3か月前から横ばいでの推移となっている(金融業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。



(備考)29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比、%)

	29年度実績見込み	30年度計画
全産業	20.5 ( 3.6)	1.5
製造業	44.9 ( 6.3)	3.0
非製造業	10.7 ( 2.1)	0.7

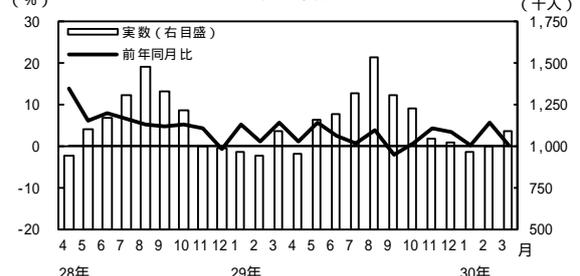
(備考) 1.( )は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2.リース会社対応ベース。

(5) 観光は増加している。

来道者数は、新幹線効果の反動減がみられたものの増加した。

来道者数



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.0%減、2月は同1.1%増、3月は同0.6%減となった。

百貨店・スーパー販売額

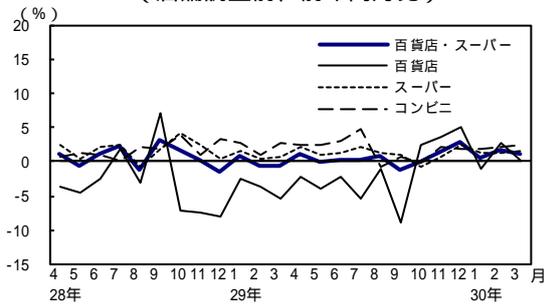
百貨店は、1月は、飲食料品、その他は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品は前年を下回った。2月は、衣料品、飲食料品は前年を下回ったものの、身の回り品、その他は前年を上回った。3月は、衣料品、身の回り品、飲食料品は前年を下回ったものの、その他は前年を上回った。

スーパーは、1 - 3月期は、主に飲食料品が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「4月に入り競合他社の格安通信プランへの顧客流出が急増している。様々な対策を打っているが、流出に歯止めが掛かっていないことから、景気はやや悪くなっている (通信会社)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



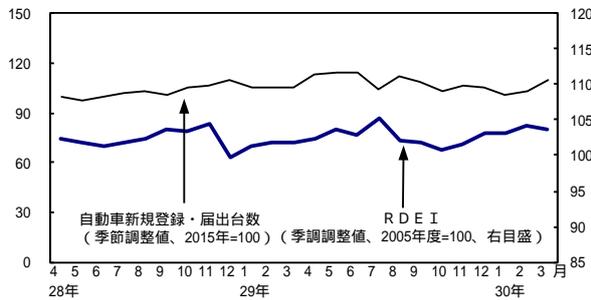
	30年1-3月	30年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.7	0.0	1.1	0.6
百貨店・スーパー(*2)	1.2	0.7	1.7	1.2
百貨店(*2)	0.6	0.9	2.9	0.2
スーパー(*2)	1.4	1.2	1.4	1.5
コンビニ(*2)	2.2	1.8	2.3	2.5
乗用車(*3)	1.6	4.7	3.4	0.9
(季節調整値)(*3)	0.4	4.9	2.8	6.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

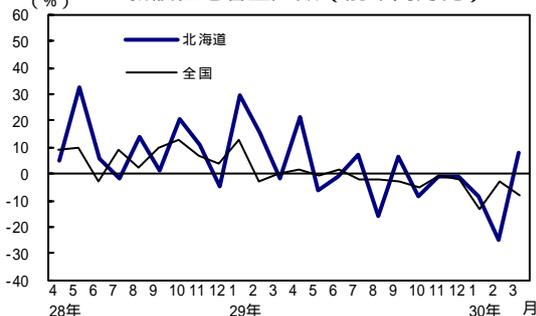


(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

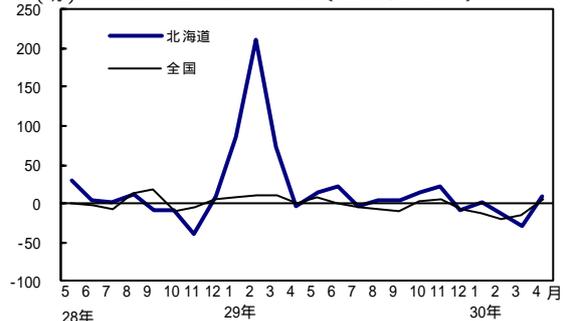
貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

新設住宅着工戸数 (前年同月比)



公共工事請負金額 (前年同月比)

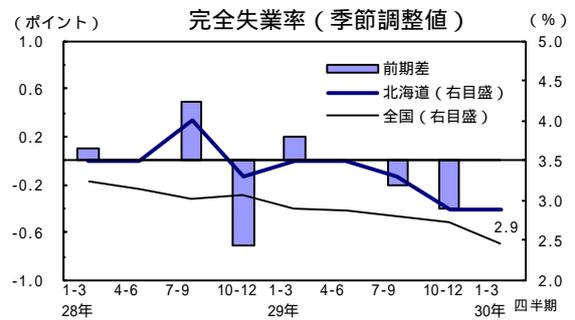
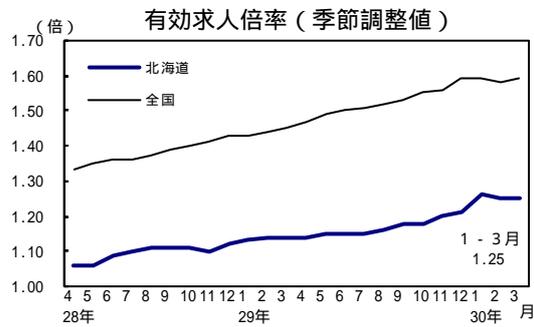


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（4月調査結果）[雇用関連（現状）]

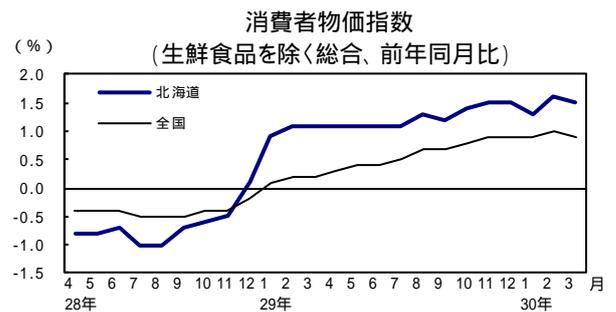
「管内の有効求人倍率が1倍を超えている状況は続いているが、更新求人の割合が高いため、景気は変わらない（職業安定所）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年4-6月	7-9月	10-12月	30年1-3月	30年4月
倒産件数	74	59	65	65	16
(前年比)	17.5	20.3	3.2	17.7	27.3
負債総額	83	138	385	120	15
(前年比)	23.3	80.3	449.8	21.0	34.8



景気ウォッチャー調査（季節調整値）

